

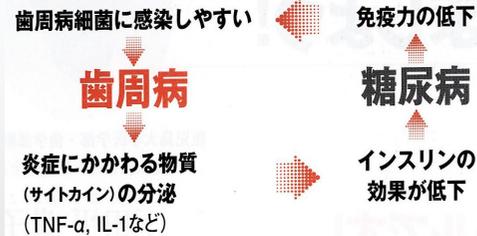
糖尿病患者の歯周病に対する意識調査

医療法人大仁会 大石病院

看護部 串田直子・島弘美 内科 大石菜摘子
神原庸典 <かんばら歯科>

Oishi Hospital

歯周病と糖尿病の関係



2009/12/2

Oishi Hospital

1

はじめに

◎ 当院では年6回の糖尿病教室を行い、継続的な糖尿病教育に努めている。

◎ この度、3大合併症に次いで第6番目に挙げられている歯周病について糖尿病教室の中で取り上げ勉強会を行い、糖尿病患者を対象に歯に関するアンケート調査を行った。

2009/12/2

Oishi Hospital

2

調査目的

- ◎ 健常者に比べて2.5倍も歯周病になりやすいと言われる糖尿病患者が正しい知識をもち、口腔ケアができているか？
- ◎ アンケートの項目から治療が必要と思われる患者は歯科受診したか？

どのくらい意識づけ出来たかを調査する。

2009/12/2

Oishi Hospital

3

- ◎ 調査期間 2009年8月～9月まで
- ◎ 調査対象 当院の糖尿病患者
<外来患者32名 入院患者24名 計56名>
- ◎ 調査方法 記名のアンケート形式
- ◎ 調査項目 《13項目》
「現在の口腔内の状態・・・9項目」
「定期的な歯科受診の有無」
「喫煙の有無」「1日の歯磨き回数」
「歯周病と糖尿病の関係を知っているか」

2009/12/2

Oishi Hospital

4

患者背景

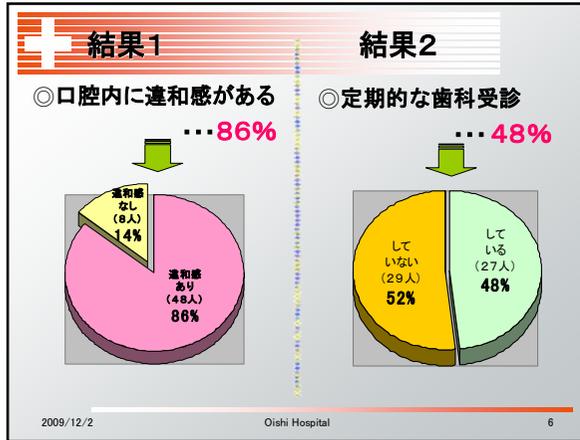
計 56名 (男性 30名 女性 26名)
平均年齢 (男性 67.1才 女性 72.3才) (人数)

	優	良	可		不可	計
			不十分	不良		
HbA1c (%)	5.8 未満	~6.5 未満	~7.0 未満	~8.0 未満	8.0 以上	
外来	1	11	5	11	4	32
入院	7	12	1	2	2	24

2009/12/2

Oishi Hospital

5



治療が必要なチェック項目

- ◎歯茎が赤くなる、歯磨きなどで出血する、腫れる
- ◎硬いものが噛めない、噛むと痛い、出血する
- ◎歯茎を指で押すとぶよぶよして血やウミなどが出る
- ◎歯が少しグラグラする

この4項目にひとつでもチェックがついた場合は、**歯周病の疑い**があるため、歯科受診をすすめた。

2009/12/2 Oishi Hospital 7

結果3

◎治療が必要...52% (人数)

	優	良	可		不可	計
			不十分	不良		
HbA1c (%)	5.8未満	~6.5未満	~7.0未満	~8.0未満	8.0以上	
外来 (32人)	0/1	7/11	4/5	7/11	1/4	19/32
入院 (24人)	2/7	5/12	0/1	1/2	2/2	10/24

2009/12/2 Oishi Hospital 8

結果4

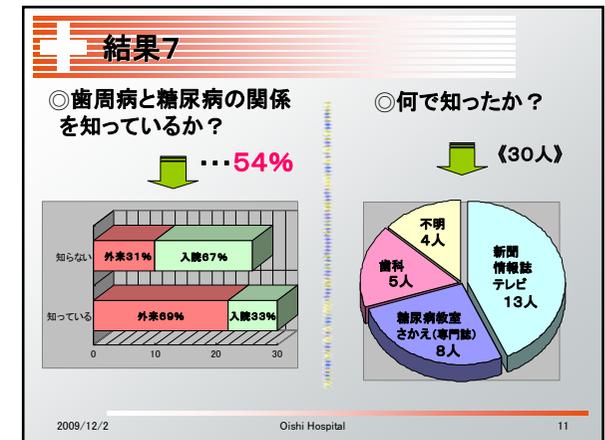
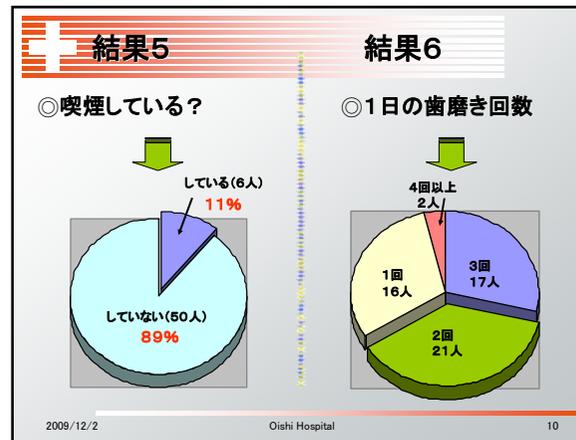
◎定期歯科受診している患者で治療が必要...44% (12人)

27人	治療が必要 (人)	治療は いらぬ (人)
外来 (16人)	8	8
入院 (11人)	4	7

◎定期歯科受診していない患者で治療が必要...59% (17人)

29人	治療が必要 (人)	治療は いらぬ (人)
外来 (16人)	11	5
入院 (13人)	6	7

2009/12/2 Oishi Hospital 9



結果8

◎歯周病と糖尿病の関係を「知っている」と「知らない」から・・・

	定期歯科受診している (27人)	治療が必要 (29人)
知っている 30人	(15人) 50%	(14人) 48%
知らない 26人	(12人) 46%	(15人) 58%

2009/12/2 Oishi Hospital 12

考察

- ①自覚症状があるわりに、歯科受診していない患者が多かった。
- ②HbA1c別に見た有病率を比較した結果、関連性は見受けられなかった。このことから、血糖コントロールの良し悪しに関わらず、歯周病の教育指導が必要と考えた。
- ③定期歯科受診していない患者のほうが6割近く、治療が必要と有病率が高かった。
- ④歯周病と糖尿病の関係を知っている患者は半数以上いたが、その中で治療を必要とする患者が48%もいた。しかし、知らない患者よりも有病率は低かった。

2009/12/2 Oishi Hospital 13

まとめ

- ◎アンケート調査により、定期歯科受診の必要性、また口腔ケアの知識と認識の違いにより歯に影響していることがわかった。
- ◎歯の治療が必要と思われる患者をピックアップでき、指導することで、さらに意識を持ってもらうことができた。
- ◎今後の課題として口腔ケアを糖尿病教室に組み込み、糖尿病の血糖コントロールに有効となるよう努めていきたい。

2009/12/2 Oishi Hospital 14